



こどもたちの未来を創るために 教育子ども予算に関して質疑しました！



一人ひとりの可能性を伸ばす教育へ
— “わかる” から “もっと学びたい” へ —

大阪市では、これまで小中学生の全国学力調査において、平均正答率が全国平均を下回るなど、**基礎学力に課題がある状況**が続いてきました。こうした状況を受け、「誰ひとり取り残さない教育」の理念のもと、すべての子どもたちが基礎的な学力を身につけられるよう、**ボトム層の底上げに重点を置いた取り組み**が進められてきました。

見えてきた新たな課題

一方で、学校現場からは次のような声も

- ☑ 理解の早い子どもにとっては、授業が物足りなく感じられることがある
- ☑ すでに理解している内容については、学びが深まらない場面がある

また、大阪市の分析においても、特に**中間層の学力の伸びに課題がある**ことが示されています。

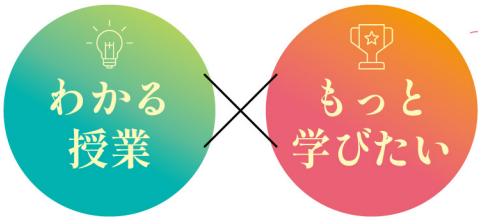
令和7年度 平均学カスコア

小学校	全 国	大阪府	大阪市	対全国比(大阪市)
国語	66.8	65	65	0.97
算数	58	58	58	1
理科	57.1	55	55	0.96

中学校	全 国	大阪府	大阪市	対全国比(大阪市)
国語	54.3	52	52	0.96
算数	48.3	47	46	0.95
理科	50.3	48.7	48.9	0.97

出典：令和7年度全国学力・学習状況調査 大阪市の結果について（大阪市教育委員会事務局）

これからの教育に必要な視点



今後は、すべての子どもが、それぞれの力をさらに伸ばせる教育へと進めていくことが必要です。そのため、「わかる授業」に加えて、「もっと学びたい」と思える学びの機会を広げていくことが重要です。

さらなる取り組み

ティーチング・エンパワーメント事業（授業力の向上）

教員の授業力を高めるため、経験豊かな専門人材が学校を支援し、授業の進め方や指導方法を改善することで、考える力・表現する力を引き出す授業の充実につなげていきます。また、大学や企業と連携した学びも活用し、出前授業や施設見学を通じて、実社会とつながる学びを深めていきます。

国際バカロレア教育（探究型の学び）

「なぜそうなるのか」を問い続ける学びを重視し、課題研究や議論、発表などを通じて、自ら考え、表現する力を育てます。



むくのき学園（所在地：東淀川区東中島）が国際バカロレア候補校に認定

昨年、大阪市の小中一貫校「むくのき学園」が、国際バカロレアプログラムの候補校に認定されました。これは、国際基準の探究型教育を導入するための第一段階であり、現在、認定校をめざした取り組みが進められています。こうした先進的な学びを広げていくことが重要です。

すべての子どもに“次の一歩”がある教育へ！ 今後も取り組みを進めていきます。

子育て家庭の負担を減らすために

—「いきいき」昼食の課題に切り込み—

大阪市では、すべての市立小学校で、放課後や土曜日、長期休業中に、子どもたちが安心して遊びやスポーツ、自主学習などに取り組める「児童いきいき放課後事業(いきいき)」を実施しています。

放課後や長期休業中に、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所を提供する、大切な取り組みです。



現 状

課 題

長期休業期間中の活動時間は…

8:30~18:00 (延長あり)

その間、昼食は各家庭からのお弁当持参となっています。

- ☑ 利用者の家庭は共働きが多く、毎朝のお弁当準備が大変
- ☑ 準備が難しい家庭では「使いたくても使いにくい」



議会での質疑

「いきいきで昼食の提供をできないか」

登録している小学生約11万人に対し、1日あたりの参加児童数(利用者)は約1万8,000人

これに対し市は…

昼食提供により利用者が大きく増えることが見込まれ、活動場所のさらなる確保やスタッフの大幅な増員が必要になるため、現時点では難しい

登録小学生
約11万人

全体の… **16%**

利用者/日
約1万8,000人

長期休業中にいきいきで昼食提供が始まると**利用したい人が急増して運営がパンク!**

課題を踏まえ、次の対応を求めました

① 活動場所の確保をさらに推進

まずは、手狭になっている場所を広げる取り組みを着実に進める

② 普通教室の活用を検討

長期休業期間に限り、工夫して普通教室を一時的に活用するなど対応を検討

③ モデル実施から段階的に導入

いきなり全校で実施するのではなく、可能な学校から試行的に始め、広げていくこと

将来的にいきいきでの昼食提供が実現できるように**これからも要望していきます**

